

經典餘師

易經

二

11
1029
17



周易餘師卷之二

下經

咸亨利貞取女吉

初六其拇

周易餘師卷之二

下經

乾坤天地の陰陽之咸恒之間の陰陽也下經の首なる所以なり



兌と上と 震と下と

咸亨利貞取女吉

見年少女子に相成る時其利貞なり

少き男女の如く相成る時其利貞なり
通じること父子夫婦朋友の如く相成る時其利貞なり
以て咸亨と云ふは相成ることを言ふ也
正あり相成ると正貞の最上夫婦なりこのは女と
取ふ吉利なり卦の体と柔陰上より剛陽下より
泰の和合の
○初六其拇
尤も下より有るは足に依て義と云ふなり
小先づくこと足の大指と初より咸なることのまじ

經典餘師

周易餘師卷之二

六二其腓凶居吉

○六二其腓凶居吉
指の足
土ふまばと足の肚くそんで行とすれんふ動ふ
又柔闇うて驟動ふりる時凶なり又又又
待て安居し人の求て
待て吉なり

九三其股執其隨

○九三其股執其隨
待て安居し人の求て
待て吉なり

九四貞吉悔亡

○九四貞吉悔亡
悔亡亡亡萬復めてくる

亡憧々往來明從爾思
身ふかどり初六の悔下ふりて動ふる六二の腓先さ
てうてくふる九三の股身ふかどりて動ふる九四の中ふ
りて上ふあさるるゆえふ心の位とい心の字なる元成
る心なるゆえふあさるるゆえふ心の位とい心の字なる元成

九五其悔亡

○九五其悔亡
悔亡亡亡萬復めてくる

上六其輔頰舌

○上六其輔頰舌
悔亡亡亡萬復めてくる

上六其輔頰舌
悔亡亡亡萬復めてくる



巽下震上

恒亨无咎利貞利
利貞利貞利貞

恒亨无咎利貞利有攸往

外卦震
年長

初六恒小浚
利貞

初六恒小浚
利貞

初六浚恒貞凶

攸无

攸利

陰文下小人有此所陽位
初六應九四志

九二悔亡

九二悔亡

人情恒何
退屈

九三其德
或承之羞貞吝

九三不恒其德或承之羞貞吝

九四田无禽

九四田无禽

九四田无禽

六五其德
貞婦人

六五恒其德貞婦人

六五恒其德貞婦人

吉夫子凶

吉夫子凶

上六振恒

上六振恒

凶。又振と恒より

艮下 乾上

遯亨小利貞

初六尾屬勿用有攸往

六振恒凶。震の極より上へ有る不正の恒より

振字ありて衣と云ふ埃と云ふ事なる

艮下 陽上へ外より陰下へは

遯亨小利貞。遯の字より君子身との

早く夏のついでに幾や察よりて決断する君子通

守りて身も應變となりて力に致し小の夏に

ある時此も應變となりて力に致し小の夏に

初六遯尾屬勿用有攸往。他の卦より

交と初よりこの卦より後より遯の字より

六二之執

九三係遯有疾畜

之用黄牛之革莫之勝説。二五と正中

結より勝と説解のものより黄中正の色より執と繋

通より勝と説解のものより黄中正の色より執と繋

九三係遯有疾畜臣。九三係遯有疾畜臣

妄吉。遯辟の時心より繋る所より

二の陰より比切より舎より持病の

敗軍の中より徐州の土民より

九四好遯
君子之吉小人否

九四好

遯君子吉小人否

四爻初爻正應
愛合

九五嘉遯
貞吉

九五嘉遯貞吉

二中正應
萬中

上九肥遯
无不利

上九肥遯无不利

此爻又之
嘉美
正貞
止留
遯之時代
身肥

乾下震上



乾下震上

大壯利貞

大壯利貞

大壯之時
利貞

初九壯于趾
征凶有孚

初九壯于趾征凶有孚

震爻

九二貞吉

九二貞吉

九二貞吉
上凌犯

九三小人用壯

君子用罔負厲羝羊觸藩羸其角

角

九三小人用壯
義理

九四貞吉悔亡
藩決不羸
與之輟于壯

六五羊于易
于
喪悔无

君子ふりて心わらく物事と睨みあはるる
心ふりてはかる所なりと羊の性の如く角と觸れ
藩決不羸と云ふは角枝がきき引懸るに
さへも往べ
○九四貞吉悔亡藩決不羸

壯于大輿之輟

四中へ過るものなり壯なるもの
いふに過るもの之貞正と守る時と

吉中へ悔亡なり又四陽進で君子の道長と
此の文は泰平の道さば藩決のつらも決けて
輟るの羸困なり又高大なる車の輟木の仕るなり
進めし勢カト不利なり

○六五喪羊于易无悔

此の文の心は下より
四陽さへ来るは

たふ羊の性のさば物ふあつてさうなり
のむそのさむいじめが
ゆる時いふして悔有る柔剛と制するなり
柔和といふは時自由なり六五陰柔なり

上六羝羊觸藩
羸退不能遂
利不攸元
則吉

坤下離上

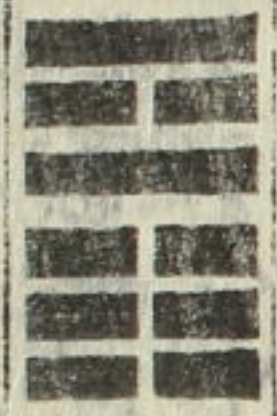
晉康侯用錫馬蕃庶書曰二接

不能退不能遂无攸利艱則吉

其の至極

○上六羝羊觸藩

羸退不能遂



坤下離上
坤下地離上火日光地上出る大陽
離上のりて天中より時光明

晉康侯用錫馬蕃庶書曰二接

大陽

六五悔亡失得勿恤往吉无不利

上九其角維用伐邑厲吉无咎

六五の陰より五戰の陽位に勝つて本位よりなる

○上九其角維用伐邑厲吉无咎

貞吝

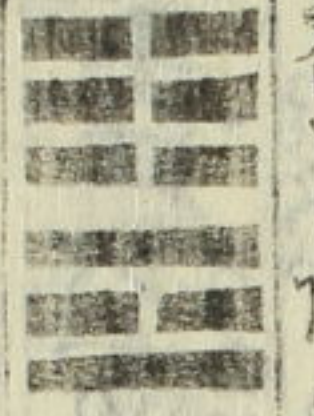
六五の陰より五戰の陽位に勝つて本位よりなる... 上九の角は外に征伐する時... 貞吝は... 凶吝は... 貞吝は... 凶吝は...

離下坤上

明夷利艱貞

初九明夷于飛

經卦錄



離下 坤上

明夷利艱貞

君子困窮人明夷之時節

初九明

夷于飛其翼君子于行三日不

食有攸往主人有言

初九明夷之時節

周易卷之二

六二明夷左股于
夷用極馬壯
吉

六二の父の離明の主なり君子中正を得て身と處るの善との世の昏暗ふらふ時節ふらふ小人明夷傷の運數いふにふらふの毒を免る九の足は右ふらふ股の小夷ふらふとふ害をなす何れも患の浅きふらふ君子の身中正を守り離明の才知れども明夷の毒をふらふ身ふ受ふれば早く身を

六二明夷左股于夷用極馬壯吉

六二の父の離明の主なり君子中正を得て身と處るの善との世の昏暗ふらふ時節ふらふ小人明夷傷の運數いふにふらふの毒を免る九の足は右ふらふ股の小夷ふらふとふ害をなす何れも患の浅きふらふ君子の身中正を守り離明の才知れども明夷の毒をふらふ身ふ受ふれば早く身を

九三明夷南狩
得其大首
不可

六四九腹于入

解卦集

解卦集卷之三

九三の父の離明の主なり君子中正を得て身と處るの善との世の昏暗ふらふ時節ふらふ小人明夷傷の運數いふにふらふの毒を免る九の足は右ふらふ股の小夷ふらふとふ害をなす何れも患の浅きふらふ君子の身中正を守り離明の才知れども明夷の毒をふらふ身ふ受ふれば早く身を

九三明夷南狩得其大首不可

九三の父の離明の主なり君子中正を得て身と處るの善との世の昏暗ふらふ時節ふらふ小人明夷傷の運數いふにふらふの毒を免る九の足は右ふらふ股の小夷ふらふとふ害をなす何れも患の浅きふらふ君子の身中正を守り離明の才知れども明夷の毒をふらふ身ふ受ふれば早く身を

六四入于左腹獲明

六五箕子之明
夷之利

上六明也
有孚

この文ハ明夷の時今ハ陰柔と
以テ陰位小処ト云フといふもの

身み高たか小こ居ゐて君きみ小こ近ぢかく君きみ小こ阿あ順しゆん（川がはらひて權けん威ゐとふり）
 小こ人ひとと右みぎ表おもて向むかひと左ひだり陰かげと左ひだりの腹はらとていふなり
 人ひとの見みえ所ところ小こたといふて倭やまと奸かんの小人こじんの君きみの心こころとて子こ小こ獲とく
 て君きみの明あきとていふ夷やまととて小人こじんの所作しよさくとて公こう明めいなりと
 陰かげとていふ置おてそれ外ほか（出でて夏なつといふ）
 門かど庭にわとて屋や布ふ内うちなり外ほか（持もてはうけいふ）
 門かど庭にわとて出でる
 ○六五箕子之明夷利貞
 義ぎ

○六五箕子之明夷利貞

と取^とて廣^{ひろ}く易^{やす}へ変^か多^{おほく}うゆえなり。上^{じやう}文^{ぶん}ふ於^おて六五の君位^{きんゐ}
るるで説^{とつ}り六五しては上六の明夷^{めいゐ}の至^{いた}亟^{しばしば}るゆえ上六を殷^{いん}
紂^{ちゆう}の暴^{ばう}虐^{ぎやく}ふたとく六五で箕子^{きし}あこころなるり。上六大^{たい}ふ
き君^{きみ}ふ近^{ぢか}きがゆふもさついでとらんといひ、箕子の
身^みの徳^{とく}と智^ちとくましく夏^{なつ}の難^{なん}苦^{くるしみ}に免^{めん}れ、箕子の
箕子^{きし}の眞正^{しんせい}の如^{ごと}くあらを利^り吉^{きち}る。

○上六。不明晦。初登于天。後入于地。

明

離下翼上

家人の女お貞ま
利り

初九まゐり閑て家いへと
有悔亡ありふ

[REDACTED]
 [REDACTED]
 [REDACTED] [REDACTED]
 [REDACTED]
 [REDACTED] [REDACTED]
 [REDACTED]

離下
巽上

明夷外して傷付たる人家人を
とつて外外してつるもの

家人利女貞

聖人舜帝ハ皇后娥皇女英子夫婦
の法則トスル一ツハ文王夫婦ト

又まづこの詩經書經のはじめの教うくの
世も乱世も男女の正とこと正とぬより夏おとれり家
とみとむるの人の女儀の法の真正と
とくく利ととることをなめ
○初九閑有家悔亡
家と有とみむるの道初より法度とて
とくと閑居一 家内とくく又他人と

家悔亡

家と有^あせむるの道^{みち}初^{はつ}より注^{しゆ}度^どを以^{もつ}て
志^しうと開^あ雇^い一^{いつ}家^け内^{うち}に^く又^{また}他^た人^{ひと}を

○六无

中々家内のいふやうに讀
と取帶のいふやうにめ

礼義の道より安んじて婦人の性へくさう

物更と遂攸ぐすといふ 貞正と守といふ
吉といふといふ。但し離の陰爻中ふして正貞なり又二

三四の坂にてむつ
ろくろこ心なり
○九三家人隔々悔厉吉

家と保て年月中と過るの心得
あり心と安堵ふるべし時衰

九三家人噶々
と悔^{くわ}て厉^{れい}めど
吉^{きち}の婦子^{ふし}は噶々
と^{つら}ろみ吝^{りん}に

六四家ハクシと富トミと

六四いん陰交くわう
て位正しやう

大^{せい}る^られ^らば^ら吉^きち^ちう^う

九五の君は之て異順ありて文明の才あり家と富乃
象あり但し富ものの疾ひなりけり小成ありて各
藩うらびて大心と用ゆは吉祥なりと云ふ上卦

九五 剛徳の明昭々

九五王家と有ふ
假る恤ること勿
き吉なり

○上九有孚威如終

上九孚有威如
終吉

上九の家々家々とゆゑむるの終るをゆえ家法の成就
せしめ家々ゆゑむる第一心の字と用ふるふに

社法（社法）とて一なとく一は威如
 なる時（めど）に吉利と終るなりと云々

兌下離上

兌下
離上
離火の性上へのぞり
兌澤の水氣下
へさがり相睽くの卦名なり

睽こへこ事こと告つるる

卦の變として時の中孚の四なり

初九悔亡くひなかり 馬うま 喪なく 逐おと 復かへ 惡わる 人ひと 見み 咎とが 无な

九二至于卷
遇咎无

とて又家人の上卦さるさるにさうて見沢とあるとて上
三家の説いづとも易の定準を以て今陰爻と以て六五
の位に居る徳を以て三三五坎難のくろくありとれ
ど少の良とけうらうらと吉とせとも大良の用務と
可なりとわたり

○初九悔亡喪馬勿逐自復

見惡人无咎

何^{なん}夏^げふようはよのどの睽^{かい}
時^{とき}節^{せつ}々自然^{しぜん}と用て心と決断^{けつだん}と云

きの道理とて初九も陽剛なり應なる位の四も陽爻なり
 元より睽けて應むることなり一と一は馬と一と一とも
 毛より自^{みづか}る衡とす一と一は不^ふ遂^{すい}求むとも益^{えき}か
 えて此^ころとて以^{もつ}て悪人^{あくじん}と見るとも惡^{わる}しつやうくと捨^{すて}
 るよりける心なりゆきて付合^{つひあ}とて
 悔^{くわい}となりて答ふりとたり
 九二遇主

于巷无咎

世の中の思ひの外の外の
とある月の殊々きんぎょ時節ときふし

合のぶたえたるに應和の道おもて睽逆おもて

六三 輿曳よりひて見みる
其牛掣ひて其その穴あなに
天てんにあげあげあれれ且かつ劓おき
終有しゅうあり初無しゅむ

其牛掣其入天且剗无初有終

陰柔の性

六三見輿曳

獨立ひとりたち一ひとぐく輿この災凶わざいたるは互坎たがひとては牛うし離はなるはていこ
 の卦元くわげんより三さんの應爻おうえんの上九じやうきうふゆくべさふ九二きうによりろふたろ
 て曳ひく牛輿うしこと撃うとめめてゆりめび四よ坎かんの險けん人ひとを以もつ
 前まへふへどてゆりめび前面ぜんめんとてゆりぐゆへ鼻はなと鼻はな
 つけ天てんの髪かみと傷きずくるとふりこれは三さんと上じやうと應爻おうえんか
 もども睽きの時ときるるぐゆえふかくくふふとめめくくれれどもつつふふ
 終はつりりとていいれれるる○九四睽孤遇元夫

上九睽て孤るゝ
 豕の塗と負て
 鬼と載るゝと

らめと齒^ハ咬^ハとるがどくふ合^ア体^ハとるぞとんかくの
 どくして往^ヤ時^トハはくゆるとんして何^{ナニ}の咎^{トガ}のけんや
 ○上

九睽孤見豕負塗載鬼一車先張之

弧ヲ後ニ說ス之カ弧ヲ匪ニ寇ニ婚ニ媾ニ往テ遇テ兩ニ則テ吉

車^{くるま}る^ると見る^{みる}先^{さき}
ふ^ふ之^{これ}が強^{ちやう}と張^{ちやう}
し^しも後^{ちのち}う^うと
強^{ちやう}と説^{せつ}と寢^ねと
る^るふ匪^ひ人^{にん}ハ婚^{こん}嫌^{けん}
人^{にん}と以^{もつ}往^{かう}て而^{しか}
遇^{あひまひ}べ則^{すなは}やう吉^{きち}と

朕く心のこゝろまゝに心とひく時へものごとくいひて終へ
 せむと甚大し全体六三へ上九の應なり然るに上九
 よりいひてもおろしきいひくむがゆえに吾身より朕
 己れとていふところを永塗と負ふも豕の壯つるむす
 泥塗の中にてまどろむがゆゑ汚れてくることこのまゝに
 鬼怪と車に載はるるものと見えて無きと有がごとく不
 志ゆるふたとて危て人となりしと終ひるもの無きと有
 がどくくもの先ふの弓とけり後ふの弦としづとやと
 初めと後とをよけり六三と履とをよけるのうら
 どもあふむ蟻蟻へとげり雨と雨と遇とを陰陽和合
 ていつまじきふたとて朕の占筮の初め
 といふ後とをよけりるがゆえに吉と

艮下坎上



良下 坎へ坎へ險阻なる山道の行はるゝと
坎上 良へ坎へまうて動くとあるべからず

前ふらん処けり 蹇跛けんぱのあやまごふらん
事やへー 卦名けうななり

六二王臣蹇々けんけん
躬之故小匪こひ

○六二王臣蹇々匪躬之故相五

應^{オウ}ト五^イ君^{クニ}の爲^{タメ}に信^{シン}トられ用^{ヨウ}らるゝと^トいふも元^{ゲン}陰^{イン}柔^{ジュ}ら^ラく^ク微^ミテ坎^{カン}えんと^トいふが^ガ一^{イチ}王^{ワウ}と^ト五^ゴ君^{クニ}を^ヲて忠^{チュウ}と^トいふも柔^{ジュ}テカ^カる^ルと^ト卦^{クワイ}中^{チュウ}に坎^{カン}の象^{ゾウ}ニツ有^{アル}る^ルと^トいふ蹇^{セン}々と^トいふ忠^{チュウ}志^シは^ハ此^{コノ}の^ノテ切^キと

六四往々蹇々来々
とて連るる

九こ五ご大たい小せう震しん之の朋とも
来きる

上六往蹇來

得て安堵あんどうふ
つくやううあり
○六四。往蹇來連

澤水困の象なり二三の坎と四五六の兌と六以
 歸來するなり——四の柔の本位なり又三と相比
 心と合の義なり又初二と同類なりなりふ
 かと合——連なりて難や濟さんとす ○ 九五

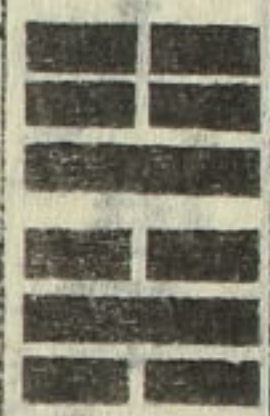
大蹇朋來
 大お蹇さうさう——大お蹇さうさうの中
 の主——てまる坎さんてうさうさう

ぐやえ之二三の坂うんとて又蹇難の主るがゆえ
 なり明来とてこの應らるゝ明君下の賢臣とて
 助らるゝとて世と救ふと明類来ると時とこれぞ
 惜哉六二の力柔微うれば心のとて世ととて益
 用と吉なりと
 いふるなり

○上六往蹇來碩吉利

碩より吉なり
大人と見ると
利あり

坎下震上



坎下震上

見大人 上六柔陰の本位なり。往て變じれば三と應ず。内佐なり。故に往て難と云ふ。往て真正と執守る時、五三の應じて得る。碩より吉なり。大人と見ると利あり。大人と九五九三と云ふ。

外に出る震雷なり。坎水なり。雨なり。雷雨の天下の事の難苦なり。解と名づけし。

解利西南
利あり
復て吉なり
攸有ハ夙より
吉なり

解利西南无所往其來復吉有攸往

夙吉

天下の乱始て治平なり。坎水のくる。坤の徳の寛大。平易なる。此の世の大平なり。復て吉なり。大平なり。復て吉なり。

初六咎无

初六无咎

初六无咎 位外なり。民の愚る。初六の賢く。信信用。小人有て君の耳とまじり。易。九二の大臣。嚴重。此の小人と田。小人の性。小人有て君中重坎の二柔。小人。黄。中央の色。矢。直正。大臣中正。忠直の道。政変。君と助。身。正。吉。田。三狐と獲。六三負て且来致。至。負。六三負て且来致。至。負。六三負て且来致。至。負。

九二田獲三狐
得黄矢
得

貞吉

九二田獲三狐得黄矢

六三負て且来致

六三負且来致至負咎

損有孚元吉
有攸往
二簋可用亨
可

初九事已
過不往
無咎
損

此下有泰之卦三上之九入之

損有孚元吉有攸往

之用二簋可用亨

初九已事遄往无咎酌

損之

後遄往

九二貞利
利貞
利貞
利貞

九二

利貞征凶弗損

六三

六三

行則損

六四

六四

六四

六四

六五或益之十朋
之龜弗克違元吉

上九損弗益之
有得之家元

賢者之損益之のうりる六五疾損
みぞくたり疾と不善やとのどけさうと過速
るといふ吉利といふ喜兆
○六五或益之十朋
人君の身ありて心一点
のうりる身ありて心一点

之龜弗克違元吉

天下の賢人よりて智と献と君の明德益
する故に天下服して上は遠くのりらるる君文明
の徳とスる身と損して下は賢徳とスる身と
益する諸の賢人も智と献と君の徳と益とスる
龜天よりて用るの祭龜よりて智のふりたり
君の智ふたりて天下の人帰服して
○上九弗損

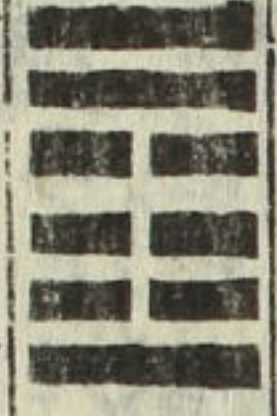
益之无咎貞吉利有攸往得臣无家

損の至極うりて益ふとの志
元来已て損ふは道と今損の至極あるは持

震下 巽上

益之攸有不利
利あり

初九用大作



震下 巽上
否の上爻下で初より次義ふ泰
厚く上へ又陰變トて陽と
うりて上へ又陰變トて陽と

益利有攸往利涉大川

卦象上より下
て下は利益萬物と育養と天下づふ於て
利ありと又益と号する
○初

卷之四

この文の震動の
主たる應答を

異順の主より初爻を剛徳の如く知り、益の時をうけり。
六四の大臣とれふとあるが、うとあるを大よ作して成説と
す。元ふ吉利とて火め。

○六二或益之十朋

之龜弗克違永貞吉王用亨于帝

○六三。益之用凶。

事无咎。有孚中行。告公用圭。

不中不正なり殊に震動とするの極なりゆえんまゝあつ

六四。中行告公從。利用爲依遷國。

盜の時ふ當て六四柔位の正と成得て君ふ迫く君と
 けて盜ととむる中行あり初爻の應ありその剛力

吉有孚惠我德この君とぞふ中正なる六二の大臣と得あり孚誠より下と

九五有孚惠心勿問元

この君とぞふ中^{ちゆう}正^{せい}なる六二の
大臣^{だいじん}と得^えぬい^い孚^ふ誠^{せい}とる下^{しも}と

上九莫益之或
成之也
利也
益也
莫也
或也
成也

乾下兌上

央王庭于揚
字小號
自告我即

利不往攸有
利也
不往
攸有

初九壯于壯
往不勝
為咎

九二惕號莫
夜
有恤
勿

惠益
知天下
くめ
とみ
○上九莫益之或

擊手之志勿恒凶
利也
益也
食欲の

乾下
兌上
利也
益也
食欲の

時氷決
柔の小人

央揚于王庭
字小號
自告我即

即我利有攸往
王庭
朝廷
用いられ
上揚
又下

小臨下
の戒め
自邑
我兵
こゝ
易と説
初九壯
夜有
て位
戒惕

初九壯于壯
往不勝
為咎

九二惕號莫
夜
有恤
勿

夜有我勿恤
号令
九二
今剛
夫の時
任重

て位
戒惕
非常の
備

姤女壯勿用取女
取女壯者女
取女壯者女

初六金柅于繫
往有攸往見
羸豕孚蹢躅

姤女壯勿用取女

陰時得女壯者陽也

陽外也。以陰內小生。陰以主卦。終。今一人之女子。五男子。以色。陽。以。元陽正清。以。用。此。初六。

繫于金柅。貞吉。有攸往。見凶。羸豕孚。

蹢躅。初六。金柅。止。堅強。金。陽。之。象。又。

夫。心。生。一。陽。守。他。陽。往。見。凶。羸。豕。孚。蹢。躅。之。象。也。

九二包有魚无咎
无實不利

九三臀无膚
其行次且无咎

九二包有魚无咎不利賓

應五

覆包之象。魚。陰。物。主。卦。比。重。之。象。初。陰。之。勢。力。也。包。國。之。傾。也。美。婦。之。象。也。今。九。二。剛。德。

吉。利。之。時。天。山。遯。之。敗。凶。也。是。以。柔。陰。之。九。

三臀无膚其行次且厲无大咎

九三

初。六。九。二。九。三。九。四。九。五。九。六。九。七。九。八。九。九。十。九。十一。九。十二。九。十三。九。十四。九。十五。九。十六。九。十七。九。十八。九。十九。九。二十。九。二十一。九。二十二。九。二十三。九。二十四。九。二十五。九。二十六。九。二十七。九。二十八。九。二十九。九。三十。九。三十一。九。三十二。九。三十三。九。三十四。九。三十五。九。三十六。九。三十七。九。三十八。九。三十九。九。四十。九。四十一。九。四十二。九。四十三。九。四十四。九。四十五。九。四十六。九。四十七。九。四十八。九。四十九。九。五十。九。五十一。九。五十二。九。五十三。九。五十四。九。五十五。九。五十六。九。五十七。九。五十八。九。五十九。九。六十。九。六十一。九。六十二。九。六十三。九。六十四。九。六十五。九。六十六。九。六十七。九。六十八。九。六十九。九。七十。九。七十一。九。七十二。九。七十三。九。七十四。九。七十五。九。七十六。九。七十七。九。七十八。九。七十九。九。八十。九。八十一。九。八十二。九。八十三。九。八十四。九。八十五。九。八十六。九。八十七。九。八十八。九。八十九。九。九十。九。九十一。九。九十二。九。九十三。九。九十四。九。九十五。九。九十六。九。九十七。九。九十八。九。九十九。九。一百。

七

初六有終不
乃若號一握
萃若號一握
笑為恤
勿往咎无

六二引吉无
字乃利
論用乃利

六三萃如嗟
如利攸
无往咎无

初六有終不
○初六有終不

終乃乱乃萃若號一握為笑勿恤往

无咎 萃の時九四權威なり衆は四阿順ふ

六二引吉无咎 字乃利用

論 六二剛中の徳を以て九五の明君に引く今初と三

六三萃如嗟如无

攸利往无咎小吝 初と二と皆應なり三と

小吝

九四大吉无咎

九五有位无咎 匪孚

上六齎咨涕洟无

經典餘節

周易卷之三

十四

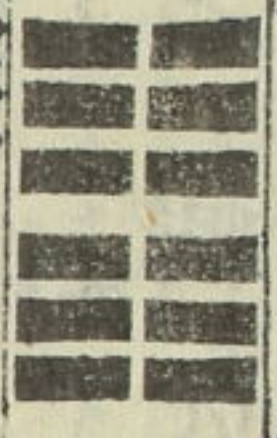
九五萃有位无咎 匪孚

元永貞悔亡 有の君をば人々萃而て上ふ

上六齎咨涕洟无

咎 陰柔の小人独立して高位に就く

巽下坤上



巽下坤上

坤地也巽木也木在地中故曰地中木生

外元亨用
大人見血
勿南征
吉

初六允升大吉

地上之象也

升元亨用見大人勿恤南征吉

六五坤順

初六允升大吉

初六應

九二利南征日中光外有君南面四方照

九二利南征
日中光外
有君南面
四方照

九三虛邑

六四王用
岐山吉无咎

九二利南征日中光外有君南面四方照

九三虛邑

變爻地水師

六四王用

亨于岐山吉无咎

承五君之

意不王之意也

六五貞吉
階の外の利の吉

上六貞外
息不の貞の利の吉

周易餘師卷三終

がいつり文王の至誠と以て岐山の衆のとき服
しるがごとくうしろを告げてうしろの咎から神と
用ゐるがごとく至誠と
○六五貞吉外階陰柔は
位の有の以て幼君の位より一歩下りて又大臣の位
より君の代りて接政するより一歩下りて周公孔明の
きとつたり能九二輔佐の賢臣より一歩下りて任
又その身を守りて貞固より一歩下りて階の外の利の吉
のて外の利の吉とむと一義ととりて賢者と牽て階の
と此のたのこころで外の利の吉の心より三四五互離文名乃
有の意
○上六貞外利于不息之貞升の極
陰柔身の發のとあつてざる小真一故と以て只に進升
とつとめて止のとあつて固て轉じて戒め下の
曰の心と動のはして一筋小徳より一歩下りて息の
とねもつたふと貞と利とあることと一とぞ貞と利と
心と動のはして一筋小守と守と事と
遂て何貞も利吉なり

